

人文学学位プログラム（博士前期課程）
Master's Program in Humanities

授与する学位の名称	修士(文学) [Master of Arts in Humanities]	
人材養成目的	人文学の研究・教育を取り巻く環境の変化及びグローバル化に伴う社会の変化に対応するため、哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学などの人文学諸分野における優れた専門的知識を身に付けると共に、地球規模の新たな問題の発見と解決をめざし、専門の異なる人々と共同して問題解決に貢献できる研究能力及び教育能力を兼ね備えた研究者、大学教員となる博士後期課程への進学を目指す者を養成する。	
養成する人材像	人文学諸分野に関する専門的知識のみならず関連する分野に関する知識も身に付け、学際的なアプローチにより研究課題に取り組む、高い研究能力を有するとともに、現代の諸問題を解決するための広い視野を有し、そのような研究成果を社会に還元することのできる人材。	
修了後の進路	博士後期課程への進学。それ以外に、中学校・高等学校教員、官公庁・自治体職員、博物館学芸員、学術出版業、教育関連会社、NGO・NPO など。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	大学院共通科目、修士論文合同演習、研究法入門、研究指導科目、講義科目、修士論文作成、中間発表、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、達成度自己点検、インターンシップ科目、修士論文作成、中間発表等
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かり易く伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	大学院共通科目、修士論文合同演習、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、中間発表、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	大学院共通科目、インターンシップ科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、TA 経験、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問等
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、人文社会科学のためのグラントライティング入門、語学力養成科目、外国語の講義科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、外国語文献を利用した修士論文作成、国外での活動経験、留学生との交流、TOEIC 得点等
6. 研究力: 人文学分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① 人文学分野における研究課題を設定する能力を身につけたか ② 人文学分野における研究計画を遂行する能力を身につけたか	学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、研究法入門、演習科目、修士論文作成、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
7. 専門知識: 人文学分野における高度な専門知識と運用能力	① 人文学分野における高度な専門知識を身につけたか ② 人文学分野における専門知識の運用能力を身につけたか	学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、専門基礎科目、講義科目、演習科目、修士論文作成(口述試験を含む)、中間発表、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
8. 倫理観: 人文学分野の基礎的研究能力を有する人材にふさわしい倫理観と倫理的知識	① 人文学分野において必要な倫理観を身につけたか ② 人文学分野において必要な倫理的知識を身につけたか	大学院共通科目(生命・環境・研究倫理科目群)、学術院共通専門基盤科目、研究法入門、演習科目、研究指導、修士論文(口述試験を含む)、中間発表、INFOSS 情報倫理、APRIN e-learning 等
9. 思考力: 専門分野に関する知識をもとに物事を論理的に考え、結論を導き出す能力	専門分野に関する知識をもとに物事を論理的に考え、結論を導き出す能力を身につけたか	演習科目、修士論文作成、研究会発表、学会発表、ポスター発表等

10. 総合力:研究成果を関連分野の中に位置づけ、応用、実践する能力	研究成果を関連分野の中に位置づけ、応用、実践する能力を身につけたか	大学院共通科目、大学院専門基盤科目、演習科目、他学位プログラム科目、研究指導等
学位論文に係る評価の基準		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマが適切に設定され、意義・位置づけが明確であること。 2. 関連する先行研究を網羅し、批判的検討を加えていること。 3. 研究方法が明確に提示されていること。 4. 論の構成が適切で、実証的、論理的であること。 5. 新たな学術的な知見が含まれること。 6. 学位論文として適切な形式を具え、研究倫理が順守されていること。 <p>修士論文の審査は、主査1名、副査2名以上で構成される審査委員会を設けて公開で行う。</p>		
カリキュラム・ポリシー		
<p>哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学の9領域を横断する人文学の研究力・専門知識・倫理観とともに、人文社会科学の幅広い基礎的素養、人文社会ビジネスにわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。</p>		
教育課程の編成方針	<p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、大学院共通科目、大学院共通専門基盤科目、研究群共通科目から2単位を選択必修とする。このほか、研究群共通科目のうち「修士論文合同演習」、「研究法入門またはAcademic Writing and Research Ethics」の2単位を必修とする。研究指導においては、複眼的視野をもった研究能力の育成のために複数指導体制（必要に応じて他学位プログラムの教員も参画）とする。具体的な履修科目や副指導教員の配置は、個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院共通科目、修士論文合同演習、研究法入門またはAcademic Writing and Research Ethics などにより、高度な知識を社会に役立てる能力を身に付ける。 ・ 大学院共通科目、人文社会科学のためのインターンシップ(1)(2)などにより、広い視野に立ち課題に的確に対応する能力を身に付ける。 ・ 大学院共通科目、修士論文合同演習などにより、専門知識を的確に分かり易く伝える能力を身に付ける。 ・ 大学院共通科目、人文社会科学のためのインターンシップ(1)(2)などにより、チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力を身に付ける。 ・ 大学院共通科目、人文社会科学のためのグラントライティング入門などにより、国際社会に貢献する意識を身に付ける。 ・ 大学院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、研究法入門またはAcademic Writing and Research Ethics、専門科目（演習科目）、修士論文作成、研究会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力を身に付ける。 ・ 大学院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、専門基礎科目、専門科目（講義科目、演習科目）、修士論文作成、研究会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における高度な専門知識と運用能力を身に付ける。 ・ 大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、大学院共通専門基盤科目、研究法入門またはAcademic Writing and Research Ethics、専門科目（演習科目）、研究指導などにより、人文社会科学分野及び人文学分野の基礎的研究能力を有する人材にふさわしい倫理観と倫理的知識を身に付ける。 ・ 専門科目（演習科目）、修士論文作成、研究会発表などにより、専門分野に関する知識をもとに物事を論理的に考え、結論を導き出す能力を身に付ける。 ・ 専門科目（演習科目）、他学位プログラム科目、研究指導などにより、研究成果を関連分野の中に位置づけ、応用、実践する能力を身に付ける。 	
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時、加えて年度当初に、学生の個々の研究テーマに基づき「履修計画」および指導体制を設定し、授業履修、研究指導を行う。 ・ 1年次に「研究法入門」の履修を通じて、研究倫理や基本的な研究手法を学び、汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」、「倫理観」を身に付ける。また、入学時の早い段階で、その他の研究群共通科目、大学院共通専門基盤科目、大学院共通科目を含む基礎科目の履修を通じて、汎用コンピテンス「知の活用力」、「マネジメント能力」、「コミュニケーション能力」、「チームワーク力」、「国際性」を身に付ける。 ・ 主に1年次に専門基礎科目の履修を通じて、それぞれの専門の基礎的な知識を学び、専門コンピテンス「専門知識」などを身に付ける。 	

	<ul style="list-style-type: none"> 主に2年次に専門科目(講義科目、演習科目)の履修を通じて、研究に必要な高度な専門知識とその運用を学び、汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」、「専門知識」、「思考力」などを身に付ける。また、専門科目(演習科目)、研究指導を中心に、汎用コンピテンス「マネジメント能力」、「コミュニケーション能力」、「チームワーク力」、専門コンピテンス「倫理観」、「総合力」を身に付ける。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> コンピテンス修得に係る評価は、1年次終了時に修得状況を指導教員が確認し、それに基づき2年次に履修指導を行い、修士論文提出時に以下のすべてのコンピテンスを満たしているか、評価を行う。修得基準は学生に対して別途提示する。 <ul style="list-style-type: none"> 知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力 国際性 研究力 専門知識 倫理観 思考力 総合力 修士論文の審査は、主査1名、副査2名以上で構成される審査委員会を設けて公開で行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>人文学諸分野への強い関心、研究課題に真摯に取り組む情熱、研究に必要な基礎的知識、語学力、論理的思考力、論述力を持ち、研究成果を社会に還元する意欲を持つ人材を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般入試では、専門科目の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学など人文学に関係する分野から1つを選択し、外国語(1カ国語)で書かれた専門文献を使った設問を含む出題を行い、人文学諸分野の研究に必要な基礎的知識、論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に必要な語学力を判定する。口述試験は、卒業論文(ないしはそれに準ずる論文)や研究計画書等の提出書類を参考とし、志願者の基礎的研究能力、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。提出書類のうち、卒業論文(ないしはそれに準ずる論文)により、専門分野に関する論述力を判定する。 推薦入試では、小論文の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。推薦入試は、学士課程等において志願者を指導し、その諸能力や性格、資質などを知悉する教員から、人文学諸分野の研究に必要な基礎的知識や論理的思考力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目の筆記試験は行わず、修士論文の執筆を進めるのに十分な論理的思考力、論述力、語学力があるかどうかを判定するために、外国語(1カ国語)で書かれた専門文献を読ませ、それに基づいて論述させる小論文の筆記試験を行う。口述試験は、推薦書および研究計画書を参考とし、専門分野の基礎的知識と研究遂行能力、研究しようとしている分野の専門的知識を確認し、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。